

2E

1

高賀詵三郎編

國民讀本

敬業社發兌

特26
933

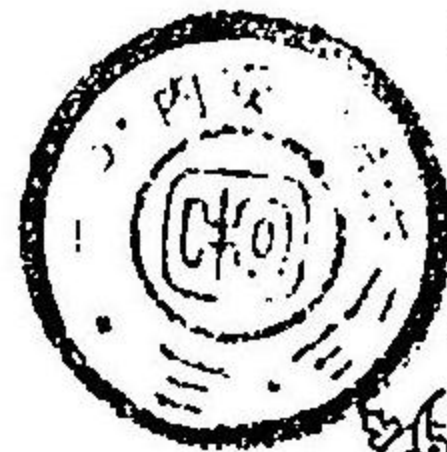
№1728/
23



國民讀本

高賀詵三郎編

敬業社發兌



序

語曰。工欲善其事。必先利其器。近日之教育家。多選法而不選書。吾未見其可也。然良書豈易得哉。淺於學力者。不得作良書。乏於經驗者。不得作良書。無此二短者。天下其有幾。然著者能以誠意從事於著作。則學力經驗雖未深遠。亦
有能足以資教育者。越後人高賀北山著國民讀本。來索序。余一閱之。多舉現行制度法律以

爲篇。蓋在將使國民先知國法。由是生忠君愛國之心。其意固美而其編著之法亦頗得宜。若能選取以充教科之用。其於養成民德。必應有
大。可觀者。然用書猶用器也。良工能化鈍器爲利器。拙工則反乎是。余望世之教育者。不以此書爲鈍器也。

明治二十二年十一月東京西村茂樹識

序

宇宙の間は星羅く國を成すもの許多なりと雖未だ我が邦の如く開闢以來
皇統一系連綿たる神聖を奉ずるものあることを聞かざるなり聞く彼の驕慢なる歐人も談我が國体は及ぶ
毎に欽慕措あざるものごとく如くと殊に

今上陛下肝食宵衣樞機を總攬し億兆を撫育し給ひ憲法を發布して萬世の國是を定めさせられ市町村制を實施して自治の基本を立てさせられし今日に當り國民たるもの誰か感奮興起せざるものあらんや抑國家の隆盛は國民教育の普及し基く蓋し幼童の心

以て白うすべく以て黒うすべく能く之を養成せば
 寶石の如くは堅固は金鐵の如くは有用あらむべき
 を以てなり而して其の教育の基礎は至りては國体の
 如何は因りて之を定むるを要す故は我が國の教育は
 智徳体の三育を施すの時は當りて深く國体を重んじ
 忠愛なるの精神を養成せずばあるべからず
 余曾て佛國の小學は於て人民須知ある一科を加ひ又
 米國は於ては政治讀本を授くることを聞き以爲らく
 我が邦まだ其の制を斟酌して幼より
 皇室國體政府國會兵役租稅等の大要を理解せしめな
 ば其の

皇室を尊び其の國家を愛し其の政府を信ずるの情は
 於て甚た鞏固を加ふべしと況や此の神聖なる此の文
 明なる我が邦の今日は於ては其の須要なること識者
 を待たずして明なり
 友人高賀君博聞強志史傳は明は又哲理は通ず頃日感
 ずる所あり國民讀本を著し序を余は徵す余頑鈍固よ
 り當るは足らずと雖深く同志の出づるを喜ひ不文を
 顧みず聊か所感を述ぶ世の教育者若し之を採用して
 幼童は授けば今より一層忠實有用なる國民を養成し
 以て邦基を鞏うして天壤と共に窮りなからしめ且彼
 の歐人を以て永く驕慢ならぬめざるは庶幾あらんか

明治二十二年十月

越後

佐分利金藏識

四

緒言

本書ハ我が國民ノ其ノ本分ヲ盡スニ必要ナル事項ヲ蒐集セルモノニシテ其ノ目的タル或ハ之ヲ小學修業ノ少年ニ授ケ或ハ之ヲ成年不學ノ人々ニ示シテ教育ノ萬一ヲ助ケントスルニ在リ夫レ國民ノ知識ノ淺深ハ實ニ

皇室ノ隆替國家ノ盛衰ノ關係スル所ナリ況ヤ其ノ本分ニ關スルモノヲヤストリー氏曰ク政學ヲ以テ普通教育ノ一科トナシテ兒童ヲシテ政治ノ恩惠ヲ知ラシメ且國體ノ保全ト國家ノ繁榮トヲ圖ルノ念ヲ養成スベシブローム氏曰ク國基ノ堅牢ナランコトヲ欲セバ其

ノ人民ヲシテ政治ノ事項ニ詳ナラシムルニ如クハナシ
 シ否ラズンバ人民タルモノハ奸雄ニ教唆セラレン又
 スペンサー氏ハ學科ヲ五分シ國民ノ智識ノ一項ヲ立
 テグリーンウード氏ハ其ノ教科中ニ國史及政体ノ一科
 ヲ設ケシヨホノツト氏ハ國政ノ一目ヲ置クノ可ナル
 一ヲ説ケリ余之ヲ聞キテ其ノ論議ノ當レルヲ感シ其
 ノ方法ノ良キヲ嘆シ感嘆ノ餘遂ニ此ノ制ノ我ガ邦ニ
 行ハレン一ヲ希ヒ聊カ此ノ書ヲ編次シテ他日大雅ノ
 著述ノ出ツル一ヲ待ツナリ豈敢テ完全無欠ニシテ學
 生ニ授ケ公衆ニ示スニ足ルトナスモノナラシヤ且本
 書説ク所ハ大概近世大家ノ論説ニ據リ敢テ余ノ杜撰

ヲ其ノ間ニ加ヘズ余ノ固陋ナル固ヨリ能スル所ニ非
 ザレバナナリ若シ夫レ編次ノ順序論旨ノ明晦ハ是余ノ
 罪ナリ觀者幸ニ之ヲ正セ

明治二十二年十月

高賀洗三郎識

國民讀本目錄

- 第一章 國ノ定義及起原
- 第二章 國ノ資格
- 第三章 政治ノ体裁
- 第四章 政治ノ目的
- 第五章 法律
- 第六章 憲法
- 第七章 刑法
- 第八章 人權
- 第九章 租稅
- 第十章 兵役

第十一章 愛國ノ情

第十二章 國體ノ基本

第十三章 族制ノ種類

第十四章 君臣ノ情

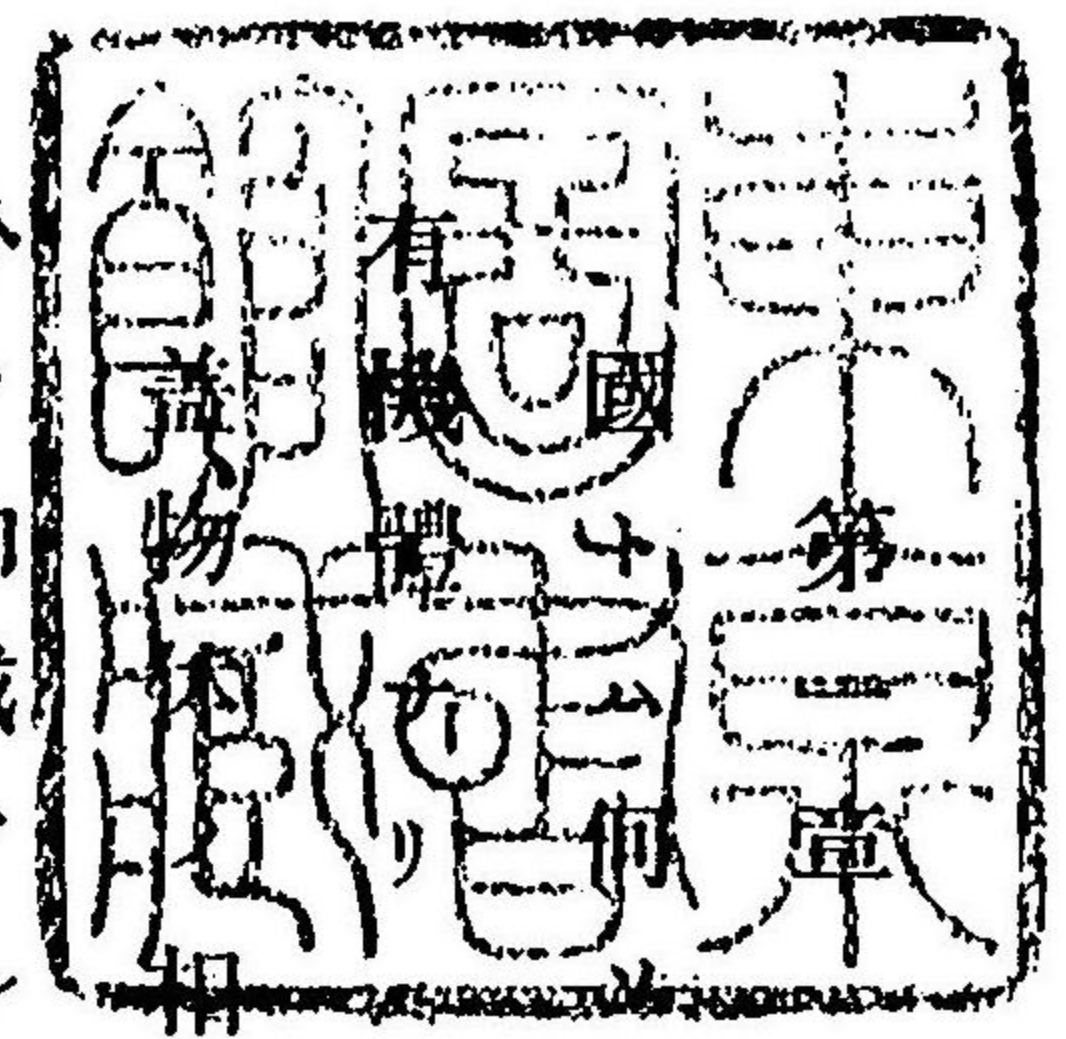
第十五章 君主ト宗教ノ關係

第十六章 官制上

第十七章 官制下

國民讀本

越後 高賀詵三郎編輯



國ノ定義及起原

ヤ人類ノ自然ニ集合シテ成レル一種ノ

聚ルヤ二種アリ一ヲ無機聚合ト稱シ部

分ノ加減アルモ全体之カタメニ變セザル一金石ノ如

キモノヲ云ヒ一ヲ有機聚合ト稱シ各部力ヲ協ハセ勞

ヲ分チテ全体ノ生活ヲ保ツト動植ノ如キモノヲ云フ

今、國ハ人民ヲ統ブル部分アリ衣食ヲ供フル部分アリ

物品ヲ配ル部分アリテ各部ノ作用悉、相待タザルハナシ其ノ狀猶動物ノ腦髓ヲ以テ動作ヲ統ベ腸胃ヲ以テ榮養ヲ供ヘ尿管ヲ以テ血液ヲ配ルカ如シ彼ノ部分全體相關ラザルモノト大ニ異ナレリ然レモ人類ハ地ヲ隔テ所ヲ異ニシテ各、生活ヲ營ミ物体分子ノ密接スルカ如クナラズ故ニ之ヲ稱シテ一種ノ有機体トナスナリ

人ノ性タル幸福ヲ得ントヲ希ハザルハナクシテ其ノ方法幸福ヲ害スル者ヲ除クニ外ナラズ而シテ其ノ害ノ小ナルモノハ獨力除クベキモ其ノ大ナルモノニ至リテハ衆人相共ニ力ヲ協ハスルニ非ルヨリハ之ヲ

除クヲ能ハザルナリ是ヲ以テ自然ニ衆人相共ニ力ヲ協ハスルニ至ル而ルニ衆人各其ノ心ヲ心トシ統一スル所ナケレハ功ヲ成スト甚タ難ク各其ノ長ズル所ヲ用ウレバ功ヲ成スト甚タ易キヲ以テ亦自然ニ智勇衆ニ越ユル者ヲ戴キ唯其ノ命ニ從フニ至ル是ニ於テカ人ヲ治ムル者アリ人ニ治メラル、者アリ其ノ業相分レ部落因テ起リ更ニ相兼并シテ遂ニ國ヲ成スニ至ル故ニ一言モテ國ノ起ル所以ヲ蔽メハ人類ノ天性及生活ノ需ト其ノ需ヲシテ完カラシムル智力ニ在リト云フベシ然レドモ種々ノ妄說アリ今其ノ主ナル者ヲ擧ケテ之ヲ辨ゼン

第一ハ國ハ天神ノ創造ニ係ルトナスモノナリ果シテ然ラバ政治ヲ施シ法律ヲ立ツルニ天神親之ヲ爲サズシテ人類ヲシテ之ヲ行ハシムルハ何ゾヤ國ノ盛衰興亡ハ人類ノ心意ニ關シ天神ノ命令ニ關セザルハ何ゾヤ又何ノ故アリテ一神ニシテ東西相反シ古今相異ナルノ事ヲ行ヒ彼ニ在リテハ良政トナリ此ニ在リテハ弊法トナルヤ此ノ數項ハ皆此ノ說ヲ以テ解スベカラザレバ其ノ取ルニ足ラザルヲ明ナリ

第二ハ國ハ人類ノ盟約ニ基クトナスモノニシテ是亦誤レリ蓋蠻人ノ性タル豫備ノ心愛他ノ情殆之ヲ有セザルカ如シ固ヨリ盟約ヲ以テ治者被治者ノ別ヲ定

ムルヲ能ハズシカノミナラズ各其ノ生治ノ争ニ急ナレバ何ノ暇アリテ斯ノ如キ盟約ヲ結ブヲ得ンヤ且之ヲ各國上古ノ歴史ニ質ストキハ此ノ說ノ妄ナルヲ亦火ヲ見ルカ如シ

第二章 國ノ資格

夫國ハ人類ノ天性及生活ノ需ト其ノ需ヲシテ完カラシムル智力ニ因リテ起レルハ既ニ之ヲ明セリ而シテ其ノ智力ノ進否ニ從ヒ國ノ成立ニ於テ完全不完全ノ別自、現ハル此ノ完全ニシテ國タルノ名ニ耻チザルモノハ謂ハユル獨立國ナリ

獨立國トハ第一一定ノ土地ヲ有シ彼ノ水草ヲ逐フ

テ轉スルノ類ニ非ズ第二政治ノ組織ヲ具ヒ永久ヲ期シテ立チ彼ノ禽獸群ヲ爲シテ旦夕モ計ラレザルノ類ニ非ズ第三事ノ自國ヲ保ツニ必要ナルモノハ意ニ任セテ之ヲ行ヒ他國ニ干涉セラレサルモノ是ナリ

此ノ第三ハ世ニ謂ハユル國權ニシテ詳ニ之ヲ説カバ國タルモノ凡ソ事業ノ其ノ國祚ヲ長ウシ其ノ獨立ヲ保チ其ノ富強ヲ進ムルニ足ルモノハ他國ノ權理ヲ侵スニ至ラサレバ如何ナル事業モ其ノ欲スル所ニ任セテ之ヲ行フヲ得ルノ權理ナリ

第三章 政治ノ体裁

世界萬國悉、幾多ノ沿革ヲ經テ習慣ノ久シキ遂ニ其

ノ國情ヲ成シ政府ノ体裁各相同シカラズ今之ヲ大別シテ三種ト爲ス

第一君主政治 君主ノ權限ル所ナク萬民ヲ土芥ニシ生殺與奪唯其ノ欲スル所ニ任スルモノアリ習慣ノ久シキ自ラ法律ヲ成シ稍君主ノ權ヲ限ルモノアリ然レトモ天下萬民ヲ以テ君主ノ私有トスルニ至リテハ共ニ其ノ致ヲ一ニセリ故ニ君主ノ政令或ハ條理ニ違フコアルモ之ヲ訴フルニ所ナク國ニ憲法ナク國民國事ニ參スルコトヲ得ズ亞弗利加諸邦ノ未開ノ國及支那朝鮮等ノ半開ノ國皆此ノ制ヲ用ウ

第二君民政治 君主上ニ在リテ萬民ヲ統ブルハ君

主政治ニ同シト雖敢テ天下ヲ私セズ必公明正大ノ憲法ヲ定メ國民ヲシテ國事ニ參スルヲ得シム我が邦及西洋諸國皆此ノ制度ニシテ文明ノ國ニ行ハル

第三共和政治 血統ノ君主ヲ立テズ貴族平民ノ別ナク有徳多才ノモノヲ公撰シ年限ヲ定メテ萬機ヲ統ベシム之ヲ大統領ト號ス其ノ他概君民政治ト同シク憲法ヲ定メテ政府ノ行事一トシテ之ニ則トラザルハナク國民皆國事ニ參スルノ權ヲ有ス此ノ制ハ亞米利加合衆國及佛國等ニ行ハル

要スルニ君主政治ハ開化未進マザルノ國ニ行ハレ君主タルモノ民ヲ愚ニシテ私ヲ行フニ便ナリ君民政

治ト共和政治ハ其ノ外貌大ニ異ナリト雖其ノ精神ノ天下ヲ以テ天下ト共ニスルニ至リテハ毫モ異ナルヲナシ故ニ文明ノ域ニ進ムハ此ノ二体ニ過クルモノナク其ノ國民ハ最モ自由ヲ得ルナリ

第四章 政治ノ目的

近世學士ノ政府ノ目的ヲ論ズルモノ頗多シ或ハ政府ハ國民ノ富資ヲ増スヲ以テ其ノ目的トスベシト説クモノアリ或ハ國民ニ與フルニ快樂幸福ヲ以テスルモノヲ行政ノ宜ヲ得タルモノト論ズルモノアリ又權利ヲ保護スルノ外政府其人民ノ私事ニ干涉スルハ一切非ナリトスルモノアリ或ハ是ナリトスルモノアリ

又人民ノ最多數ニ與フルニ最大幸福ヲ以テスルコトヲ
 政術ノ當ヲ得タルモノナリト説クモノアリ文明ノ國
 ハ概此ノ説ヲ採レリ然ルニ或ハ多數ノ故ヲ以テ少數
 ヲ制スルハ道ニ非ズトスルモノアリ是政治ノ當不當
 ニ於テ議論紛々タル所以ナリ

然レトモ謂ハユル最大幸福説ハ衆論ヲ和セント欲
 シ其ノ相反ク所ヲ去リ相合フ所ヲ取リテ之ヲ成セル
 モノニシテ夫ノ衆人ノ權理ヲ和セント欲シテ成セル
 今日ノ法律ト其ノ精神ヲ同ウスルモノナリ其ノ今日
 ニ行ハル、コト宜ナルカナ

第五章 法律

夫、人共ニ同國ニ生存シカヲ協ハセ勞ヲ分チ各奮ヒ
 テ其ノ權理ヲ張ラントスルニハ我レ固ヨリ他人ノ權
 理ヲ侵スベカラズ他人モ亦我が權理ヲ害スベカラズ
 故ニ他人ノ權理ヲ侵害セザルコトヲ以テ權理ヲ張ルノ
 制限トセズンバアルベカラズ何トナレバ各其ノ權理
 ヲ張リテ他人ヲ顧ミザレバ自他相害シ相侵シ相共ニ
 生存スルコト能ハザレバナリ是ヲ以テ治者其ノ制限ヲ
 定メ之ヲ文書ニ載セテ被治者ヲシテ之ヲ奉セシム今
 日我邦及歐米諸國ニ行ハル、法律即、是ナリ
 古ヨリ何レノ國モ人民ノ相殺シ相盜ミ相欺クヲ禁
 ゼザルハナシ是亦法律ナリ然ルニ其ノ精神ニ至リテ

ハ今日ノ謂ハユル法律ト大ニ異ナル所アリ

何トナレバ君主專制ノ世ニ方リテ凶殺竊盜詐僞ヲ禁ズルハ其ノ目的タル概、他國ト相争フニ際シ國民和セズシテ他ニ敗ラル、トナガラシメンガタメナリ教權一統ノ世ニ方リテ之ヲ禁ズルハ其ノ教法ニ戻ルガタメナリ而シテ今日ノ法律ニ於テ之ヲ禁ズルハ衆人ノ權理ヲ折衷シテ自他共ニ立チ相存スルトヲ得シメントスルニ在ルナリ

唯其ノ精神ノ異ナルノミナラズ其ノ種類モ亦、自異ナリ例ヘハ君主專制ノ世ニハ姓序ヲ紊シ上下相婚スルトヲ禁シ教權一統ノ世ニハ神佛ヲ謗リ葬祭ノ式ニ

違フトヲ禁ズルノ類ナリ是豈今日ノ法律ニ於テ見ル所ナランヤ

法律ヲ分チテ概之ヲ二トス其ノ一ハ政府ノ人民ニ於ケル關係ヲ定ムルモノニシテ之ヲ公法ト稱シ其ノ一ハ國民相互ノ關係ヲ定ムルモノニシテ之ヲ私法ト稱ス

公法ノ最、重キモノハ憲法ニシテ人民ノ自由ヲ護リ人民ノ安寧ヲ保チ國家ノ成立ヲ鞏クスル所以ノモノナリ故ニ國民タルモノハ獨、自、之ヲ奉スルノミナラズ亦他人ヲシテ之ヲ奉セシメントヲ勉メズハアルベカラズ然ラズシテ之ニ抗抵シ之ヲ紛更セントスルモノ

、如キハ謂ハユル反逆ニシテ國家ヲ敗ルノ殘賊ナリ
 其ノ他尋常ノ法律ト雖其ノ私法タルト公法タルト
 ヲ問ハズ或ハ財産ヲ護リ或ハ道德ヲ高クシ或ハ身体
 ヲ衛リ或ハ國ノ品位ヲ保ツモノナレバ國民タルモノ
 ハ謹ミテ之ヲ奉ゼズバアルベカラズ

第六章 憲法

夫法律ニ依リテ各人ノ行爲ヲ限リ以テ國家ノ安寧
 ラ保タント欲セバ必先其ノ法律ヲ制シ且之ヲ施サズ
 バアルベカラズ故ニ或ハ君主直ニ其任ニ當ルモノア
 リ或ハ共和ノ政ヲ立ルモノアリ各其ノ國ノ宜ニ從ヒ
 テ政府ノ体裁自同シカラズト雖之ヲ要スルニ當時人

民ハ以爲ヘラク政府ノ本分ハ第一人民ニ代リテ法律
 ヲ制シ第二未、發セザルノ前ニ方リ人權ノ侵害ヲ防キ
 已ニ發スルノ後ニ方リ之ヲ復シ第三之ニ費ス所ノ金
 圓ヲ徵集スルニ止マレリト

然ルニ政府ニシテ既ニ立法司法ノ大權ヲ執リ又數
 萬ノ金圓ヲ徵集スルヲ得ルヤ或ハ濫リニ其ノ權ヲ用
 非人民ノ權理ヲ害シテ顧ミザルコトアリ是ニ於テ國民
 互ニ其ノ權理ヲ害スルコトヲ防ク所以ノ法律アルヲ以
 テ未、足レリトセズ遂ニ政府ノ人民ノ權理ヲ害スルコ
 トヲ防ク所以ノ、法律ノ制定ヲ見ルニ至ル是憲法ノ由リ
 テ起ル所以ナリ

此ノ憲法ニ於テ政府ノ少シモ侵ス可能ハザル人民
全体ノ權理ヲ指シテ之ヲ民權ト云フ

第七章 刑法

昔王朝ノ盛ナリシ時大寶令等ノ法典アリテ之ヲ施
スヤ豫、人民ニ告ケ之ヲシテ曉然トシテ其ノ由ルベキ
所ヲ知ラシメ且全國ヲ通ジテ一ナラシメタリ武門跋
扈シ武士四方ニ割據スルニ至リ豫告ノ法廢タレ畫一
ノ令息ミ或ハ細故ヲ刑シ或ハ大過ヲ宥シ或ハ嚴ニ或
ハ寬ニ人民ヲシテ其ノ然ル所以ヲ知ル可能ハザラシ
メテ尊嚴ヲ保チ天下ヲ威服セリ王政古ニ復ルニ及ビ
再三改定ヲ經テ現行ノ刑法出テ人民復、豫告畫一ノ下

ニ安息スル可ヲ得ルニ至レリ

其ノ刑ニ三種アリ即重罪輕罪違警罪ニシテ重罪ト
ハ死刑無期徒刑有期徒刑無期流刑有期徒刑重懲役輕
懲役重禁獄輕禁獄ヲ云ヒ輕罪トハ重禁錮輕禁錮罰金
ヲ云ヒ違警罪トハ拘留科料ヲ云フ

其ノ目的タル蓋ニアリ其ノ一ハ犯人ヲ懲シテ再犯
セシメザルニ在リ其ノ一ハ傍人ヲ戒メテ犯罪セシメ
ザルニ在リ現今監獄ヲ以テ學校視シ老儒ヲ招キテ脩
身ノ學ヲ説カシメ高僧ヲ聘シテ宗旨ノ教ヲ講ゼシム
ルハ即第一ノ目的ヲ達スル所以ノ方法ニシテ治罪ノ
方法ヲ整ヘ法庭ヲ公開シ刑ノ宣告ヲ公ケニスルガ如

キハ即第二ノ目的ヲ遂クル所以ノ方法ナリ。然シテ刑ハ行爲ノ良心ニ戾ルモノハ大小ヲ問ハズ輕重ヲ論ゼス悉之ニ加フベキモノニ非ズ唯必要ノ時之ヲ用ウベキノミ何ヲカ必要ノ時ト云フ人アリ他人ノ權理ヲ害スル時是ナリ何トナレバ各人ノ權理ハ固ヨリ神聖ニシテ犯スベカラザルモノナルヲ以テ之ニ害ヲ加フルモノハ嚴ニ之ヲ防カズバアルベカラザレバナリ

然ラズシテ此ノ外ニ出ヅルモノハ之ヲ苛法ト云ヒ濫刑ト云フ今人アリ天神ヲ蔑ニシ宗教ヲ誹ランカ人ハ天神ノタメニ仇ヲ復シ宗教ノタメニ怨ヲ報ユルノ

職分アルモノニ非ザレバ政府タルモノ固ヨリ之ニ與リ之ヲ罰スベカラザルナリ又人アリ操持固カラズ酒色ニ耽溺センカ此亦他人ニ對シテ罪ナシト云フベカラズ蓋自棄自暴ハ風俗ヲ害シ國家ヲ毒スレバナリ然レドモ是、唯、自、勉ムベキ所ヲ勉メザルノミ敢テ他人ノ權理ヲ害スルモノニ非ザルナリ政府タルモノ豈此等ノ行ヲ探リテ之ヲ罰スベケンヤ

第八章 人權

人權トハ法律ノ制限内ニ在ル人々ノ權理ヲ云フ人々其ノ欲スル所ニ任セテ此ノ人權ヲ使用シ毫モ他人ノ壓制ヲ受クルコトナキ狀ヲ自由ト云フ

此ノ人權ノ他人ニ在ルモノヲ重シク敢テ侵害ヲ加ヘザルヲ義務ト云フ

今此ノ人權ヲ列擧セバ第一自身ニ關スル權理ニシテ即生活ノ權體肢ノ權動行ノ權自護ノ權等ナリ第二外物ニ對スル權理ニシテ即勤勞ノ權及所有ノ權ナリ第三契約ノ權結社ノ權ニシテ之ヲ稱シテ交際ニ關スル權理ト云フ第四家族ノ權財產遺贈ノ權ニシテ之ヲ稱シテ親族ニ關スル權理ト云フ第五社會ニ對スル權理ニシテ即發言印行等ノ權ヲ云ヒ第六名譽ノ權及侮辱除脱ノ權ニシテ第七良心及立論ノ權信仰禮拜ノ權ナリ

夫人權ハ今日ニ在リテハ條理粲然トシテ見ルベキ
 一此ノ如シト雖人類ノ初メニ溯リテ之ヲ考フレハ毫モ其ノ權理ヲ有セザルナリ君主專制ノ時ニ方リテヤ各人ノ生命財產努力一トシテ治者ノ意ノ如クナラザルハナク被治者ハ我が意ヲ以テ我が行ヲ決スルコト能ハザルナリ何トナレバ國家ノ成ルハ生活ノ争ニ勝ヲ得ルニ由リ生活ノ争ニ勝ヲ得ルハ衆心ノ一致スルニ由リ衆心ノ一致スルハ上ニ統御ノ人アリテ下ヲシテ一ニ其ノ命ニ從ハシムルニ由レバナリ蓋全國ノ生活ヲ謀ルハ主ニシテ一民ノ生活ヲ謀ルハ從ナリ是ヲ以テ各人ハ苟全國ノ存亡ニ遇フキハタメニ己レノ財產

ヲ舍テ己レノ勞力ヲ投シ己レノ生命ヲ抛タザルコトヲ得ズ

稍進ミテ封建ノ時ニ至レバ各人ハ未自由ヲ得ルニ至ラズト雖諸侯ノ位ニ居リ或ハ伯者ノ任ニ當ルモノハ其ノ自由ヲ得ルニ至ル

更ニ進ミテ法律ヲ以テ國家ノ安寧ヲ保ツニ至レバ全國ノ安寧ヲ保ツ所以ノ法律ヲ以テ各人ノ行爲ヲ限ルヨリ之ヲ見レバ權理ハ國ニ在リテ各人ニ在ラザルガ如シト雖其ノ法律ノ精神ハ各人ノ權理ヲ保護スルニ在ルヨリ之ヲ見レバ各人ノ自由甚大ナリ

是ニ由リテ之ヲ觀レバ建國ノ初メハ國家ノ權理ト各人ノ權理ト相反セリト雖文明ノ進歩ニ從ヒテ其ノ相反スルノ度大ニ減セリ然ラバ其ノ相和センコト期シテ待ツベキノミ

第九章 租稅

租稅トハ何ゾヤ國民ノ其ノ收入ノ幾分ヲ割キテ之ヲ國家ノ費ニ供スルモノナリ

國ハ必陸海ノ兵卒ヲ置キテ不虞ニ備ヘザルコトヲ得ズ之ヲ置クニハ必戎器彈藥兵裝兵艦ヲ設ケズバアルベカラズ又必諸ノ官吏ヲ置キテ或ハ司法ノ務ヲ執ラシメ或ハ行政ノ任ニ當ラシメザルコトヲ得ズ此ノ輩ハ皆其ノ身ヲ國事ニ委スルヲ以テ必之ニ與フルニ俸給

ヲ以テシ應分ノ生計ヲ營マシメズハアルベカラズシ
 カノミナラズ道路ノ多キアリ河港ノ夥キアリ山林田
 野ノ繁キアルモ必、悉之ヲ脩メテ全國ノ利便ヲ計ラズ
 ハアルベカラズ然シテ國若此ノ諸費ニ充ツル金額ヲ
 有セザレハ如何シテ此等ノ事業ヲ成スコトヲ得ンヤ是
 租稅ヲ收ムルノ已ムコトヲ得ザル所以ナリ

而シテ之ヲ納ムルモノハ其ノ國民ニ非ズシテ誰ソ
 ヤ蓋國民タルモノハ貴賤ノ別ナク貧富ノ差ナク皆政
 事ノ恩惠ニ賴リテ以テ斯ノ粟ヲ食ヒ斯ノ帛ヲ衣斯ノ
 器械ヲ用非テ生業ヲ營ミ外ニハ暴殺掠奪ノ憂ヲ免レ
 内ニハ仰事俯育ノ樂ヲ全ウスルコトヲ得其ノ恩其ノ惠

孰カ此ヨリ大ナルモノアラシヤ夫鴉兒モ能ク反哺シ
 豺獺モ猶、本ニ報ユルヲ知ル人トシテ禽獸ニ如カザル
 ベケンヤ是ニ由リテ之ヲ觀レバ租稅ヲ納レテ國用ヲ
 助クルハ獨法律ニ據リテ課セラレタル義務ノミナラ
 ズ亦良心ノ義務ナリ

然ルニ世上間、租符ヲ見テ蹙額スルモノアリ督促ヲ
 受ケテ官吏ヲ疾視スルモノアリ甚シキハ隱匿ヲ逞ク
 シテ官吏ヲ欺キ己ガ納ムル所ヲ他人ニ委セントスル
 モノアリ豈國ノ罪人ニ非ズヤ獨國ノ罪人タルノミナ
 ラズ亦國民ノ罪人ナリ獨國民ノ罪人タルノミナラズ
 亦良心ノ罪人ナリ

租税ハ現今法令ヲ以テ之ヲ二種ニ分テリ國稅地方稅是ナリ國稅ハ全國一般ニ賦課スベキモノニシテ之ヲ大藏省ニ收入シテ國費ニ供スルモノナリ其ノ目的タル利益ノ普ク全國ニ關スルモノヲ保持スルニ在リ地方稅ハ各府縣ニ於テ賦課シ地方廳ニ收入シテ其ノ地方ノ費用ニ充ツルモノナリ其ノ目的タル利益ノ特ニ一地方ニ關スルモノヲ保持スルニ在リ

第十章 兵役

兵役ハ國民ノ最大ナル義務ニシテ或ハ之ヲ血稅ト稱スルモ良ニ以アルナリ然ルニ世運日ニ開明ニ進ミ風俗月ニ善良ニ趨ケルヲ以テ此ノ義務ノ範圍ハ自縮

マリ普ク國民ニ被ラザルニ至レリ

蓋大古ハ何レノ國モ皆戰爭ハ其ノ常事タルヲ以テ國民皆兵ニシテ其ノ未老衰セザルヤ朝夕唯兵事ニノミ從ヘリ己ニシテ兵農相分レタルモ農ハ下リテ奴隸トナリ兵ハ上リテ稍其自由ヲ得テ世ニ貴重セラレタリ近世ニ至リテハ列國皆製造貿易殖産工業ノ類ヲ以テ國ノ富資ヲ進ムルニ必要ナル事業トナシ我が邦今日ノ徵兵法ノ如キモ獨、抽籤ヲ以テ定メラレタルモノ、任トナリ籤ニ中ラザルモノハ兵役ニ服セザルヲ得ルナリ然レドモ苟之カ籤ニ中レルモノハ少シモ其ノ苦ヲ訴フベカラズ何トナレバ戰爭ノ跡未、地ヲ掃ハズ

シテ國各、兵ヲ備フルノ要アレバナリ況諸大國ノ虎視
 狼耽シテ隙アラハ輒、相噬マントスル間ニ在ルモノヲ
 ヤ

然ルニ間、兵役ヲ忌ミテ之ヲ避ケントスルモノアリ
 何ゾ祖先ノ事ヲ思ハザルヤ夫我が國ノ古地ハ廣キニ
 非ズ人ハ衆キニ非ス財ハ富ムニ非ズ兵甲ハ堅利ナル
 ニ非ズ而シテ國威遠ク海外ニ及ビ隣國敢テ顧ヲ染レ
 ザルモノハ何ゾヤ他ナシ祖先ノ勇武四隣ヲ壓セシニ
 由ルナリ嗚呼祖先ハ山河ヲ跋涉スルヲ以テ常トセシ
 ニ子孫ハ坦途隊行スルヲ以テ苦トスルヤ祖先ハ屢海
 外ノ役ニ赴クヲ以テ勞トセザリシニ子孫ハ一タビ咫

尺ノ營ニ入ルヲ以テ難シトスルヤ祖先ハ曾テ元寇十
 萬ヲ一戰ノ下ニ殲シ雞林八道ヲ旬月ノ間ニ蹂躪セリ
 今一旦風魚ノ警アリ劍光彈雨ノ間ニ立チ他國ト利鈍
 ヲ較シテ其ノ下ニ出デバ何ノ顔アリテ祖先ヲ地下ニ
 見ン何ゾ之ヲ思ヒテ自奮ハザル

第十一章 愛國ノ情

凡テ本國ニ對シ或ハ昇平ニ於テシ或ハ艱難ニ於テ
 シ或ハ他國ト相争フニ於テシ樂ムトアリ憂フルトア
 リ悲憤スルトアリ此豈愛國ノ情ニ非ズヤ

夫我が敝衣ハ我が心ヲ惹クト他人ノ錦繡ニ勝リ父
 ノ遺枕ハ我が情ヲ動かスト英皇ノ玉椅ニ勝ル何トナ

レハ一ハ我レニ近クシテ利害相關シ一ハ我レヲ去ル
 一遠クシテ利害相關セザレバナリ此ノ情ノ生ズルハ
 之ト相同シウシテ其ノ由リテ起ル所以ハ人々其ノ屬
 スル所ヲ異ニスルニ在リ

此ノ情ヲ養成スルニ與リテ最力アルモノハ人種ノ
 同キガ如キ言語ノ同キガ如キ宗教ノ同キガ如キ風俗
 習慣ノ同キガ如キモノニシテ自國ノ歴史ニ明ニ自國
 ノ地理ニ詳ナルノ類モ此ノ情ヲ養成スルノ一端ナリ
 我カ國ハ亞細亞ノ東部ニ位シ北緯二十四度六分ニ
 起リ同緯五十度五十六分ニ達シ東經十六度四十七分
 ト西經十七度ノ間ニ在リ東及南ハ太平洋ニ臨ミ西北

ハ海ヲ隔テ、支那朝鮮ニ對シ北ハ魯西亞ニ境ス其ノ
 形ハ東北ヨリ斜ニ西南ニ延キテ恰、蛟龍ノ天ニ昇ラン
 トスルガ如シ其ノ長サハ五百余里トシ其ノ幅員ハ二
 萬三千七百四十方里トシ其ノ周圍ハ七千〇百十三里
 強トス小ト謂ハザルベケンヤ

然ルニ國ノ大小アルハ猶家ノ大小アルガ如シ今一
 介ノ匹夫モ苟、正道ヲ踐マバ豪家名族ノ間ニ立ツト雖
 孰カ敢テ之ヲ侮ラン大國大ナリト雖安ゾ無禮ヲ有道
 ノ國ニ加フルコトヲ得ンヤ印度ハ大ナリト雖終ニ英國
 ニ有セラレ丁抹ハ小ナリト雖新ニ大國ノ間ニ獨立セ
 リ是ニ由リテ之ヲ觀レバ大ナルモ誇ルニ足ラズ小ナ

ルモ憂フルニ足ラズ國家ノ強弱ハ其ノ民心ノ如何ニ在ルノミ我レ亦何ゾ其ノ小ナルヲ憂ヘンヤ

然レドモ國ノ國ニ於ケルハ利害ヲ共ニセズ禍福ヲ均ウセズ他國ノ害ハ自國ノ利トナリ自國ノ福ハ他國ノ禍トナル是ヲ以テ國各唯其ノ利ヲ謀リテ他國ヲ顧ミズ事アレバ相争ヒ隙アレバ相攻メ苟、乘ズベキノ機アレバ其ノ君ヲ奴トシ其ノ都ヲ圍トシ其ノ國土ヲ奪ヒテ毫モ憚カル所ナシ何トナレバ世界萬國ハ一ノ有機体ニ非スシテ數多ノ有機体相列レルモノナレバナリ鳥獸ハ相殺シテ各其ノ命ヲ保チ草木ハ相枯ラシテ各其ノ生ヲ全フス是生物ノ常性ナリ今列國ノ相凌キ

テ各其ノ國ノ強大ヲ謀ルモ何ゾ此ニ異ナラン然レバ國ノ未ダ全ク強大ナラザルモノハ夙夜ニ憂勤シテ其ノ強大ニ進マンコトヲ謀ラズバアルベカラズ何ゾ彼レハ彼ノ強ヲ以テシ我レハ我カ道ヲ以テスト謂ヒテ已ムベケンヤ

外人云ヘルコトアリ日本ハ世界ノ公園ナリト善イカナ我カ國タル大平洋ノ波上ニ躍出シ地勢ノ起伏斷續隨ヒテ一ナラズ氣候ハ温和ニシテ時ニ輕風微雨ヲ催フシ土地ハ豊美ニシテ頗、天然ノ風景ニ富メリ其ノ海濱ニハ翠嶼ノ碧波ニ出沒シ青松ノ白沙ニ起臥スルアリ怒濤ノ怪巖ヲ撃チ蘆荻ノ海風ニ鳴クアリ其ノ内地

ニハ層巒深ク鏡湖ヲ擁シ溪澗靜ニ白練ヲ布ク到ル處
 風光雅ニシテ幽ナリ且富岳ノ白雪ヲ戴キテ東海ニ巍
 立シ櫻花ノ紅雲ヲ曳キテ山野ニ爛熳タルガ如キハ外
 邦其ノ比ヲ見ザル所ナリ凡此等ノ物吾人ノ耳目ニ感
 シ吾人ノ肺脾ニ沁シテ我カ國民ノ氣風ヲ養成セシモ
 ノ如何ゾヤ古人曾テ賦シテ曰ク

あさしまの、やまどこころを、ひととはく、

あさひよにほふ、やまをえらはな、

夫我レヲ肥ヤスモノハ本國ノ粟ナリ我レヲ煖ムル
 モノハ本國ノ衣ナリ我カ用ヲ利スルモノハ本國ノ什
 器ナリ而シテ能ク此ノ如クナラシメシモノハ豈我カ

祖我カ父ノ其ノ汗モテ此ノ土ヲ肥シ其ノ血モテ此ノ
 土ヲ潤セシニ由ルニ非ズヤ人タルモノ之ヲ愛セズン
 ハ何ヲカ愛スベキ

故ニ國ノ將ニ興ラントスルヤ國民皆奮ヒテ自國ヲ
 シテ他國ニ凌駕セシメンコトヲ希ヒ其ノ將ニ衰ヘント
 スルヤ國民皆憤リテ狂瀾ヲ既倒ニ回サンコトヲ念フ國
 民タルモノ各此心ヲ存シテ互ニ相結合セズンハ完備
 ノ法律ヲ設クルモ何ゾ之ヲ用非テ文明ヲ進ムルコトヲ
 得ンヤ他國ニ攻撃セラル、モ何ゾ生ヲ抛チテ獨立ヲ
 護ルコトヲ得ンヤ

然ルニ西洋ノ中世耶蘇教ノ盛ンナルヤ或ハ四海同

胞ノ説ヨリシ或ハ唯、同教者ノミヲ愛スルノ論ヨリシ
 テ大ニ此ノ心ヲ輕ズルノ風ヲ生ゼシトアリ是吾人ノ
 股鑿ナリ戒メザルベケンヤ

第十二章 國體ノ基本

夫立國ノ基本ハ或ハ宗教ヲ以テスルモノアリ或ハ
 族制ヲ以テスルモノアリ我ガ邦ハ族制ヲ以テ之カ基
 本トシ西洋諸國ハ宗教ヲ以テ之カ基本トセリ是其ノ
 風習人情ノ大ニ相異ナル所以ナリ

抑宗教ノ目的タル天神ノ威ニ藉リテ人心ヲ制スル
 ニ在リ故ニ天神ノ外ニ威ヲ有スルモノアレバ必ズ天
 神ノ威ヲ損スルヲ以テ宗教者ハ皆家長若クハ族長ヲ

シテ其ノ威ヲ有セシムルトヲ非トセリ夫ノ父母ヲ尊
 敬スルモ我レヲシテ此ノ世ニ出テ天神ニ事フルトヲ
 得シムルノ故ヲ以テスルモノニシテ家族ノ長タルヲ
 以テ之ヲ尊フニ非ザルナリ

基督ノ世ニ在ルヤ門人父ノ喪ニ方リ先葬リテ後、業
 ニ就カント請フモノアリ基督ノ曰ク死人ヲシテ死人
 ヲ葬ラシメヨ汝來リテ我レニ從ヘ又曰ク父母ヲ愛ス
 ルノ情我レヲ愛スルノ情ニ越ユルモノハ我カ門ニ入
 ルトヲ得ズ又曰ク天ニ在ス我ガ父ノ意ニ從ヒ奉ルモ
 ノハ誰カ我カ兄弟タリ我カ姉妹タリ我カ父母タラザ
 ランヤ又曰ク我レ世ニ贈ルモノハ平和ニ非ズシテ白

刃ナリ我レハ子ヲシテ父ニ敵セシメ娘ヲシテ母ニ敵セシメンガタメニ世ニ來レルモノナリト是ニ由リテ之ヲ觀レバ宗教者苟其ノ奉戴セル天神ニ比スルトキハ父ノ尊フベキモ尊ブニ足ラズ母ノ愛スベキモ愛スルニ足ラズトスルハ知ルベキナリ

聞ク米國開國以來三百年其ノ祖ヲ同シウシ其ノ名ヲ同シウスルモノハ十數戸ナルモ概相知ラザルモノ、如シト蓋西洋各國ハ千有余年此ノ教ヲ奉シ親族ノ互ニ相連結スルモノナシ是ヲ以テ自然ニ子トシテ其ノ父ヲ父トセズ妻トシテ其ノ夫ヲ夫トセザルコト今日ノ如キニ至レリ豈恠ナラズヤ

我カ邦ハ之ニ反シ族制ヲ以テ立國ノ基本トシ

天祖ノ神勅

神武ノ祭先ハ赫々トシテ後世ヲ照シ忠孝ノ說名分ノ論ハ嘖々トシテ里巷ニ喧シ是ヲ以テ古ヨリ衆族互ニ相争フコトアリト雖衆族ノ上ニ立チ統御ノ任ニ當リ給ヘル

皇室ニ至リテハ一人ノ之ヲ輕シ奉ルモノナク二千有余年ヲ經テ今日ニ至リ

皇統連綿トシテ天地ト共ニ極リナカラントス

是、風習人情ノ國體ノ基本ニ因リテ異ナル所以ニシテ國民タルモノ一ノ事業ヲ起スニ方リ一ノ議論ヲ立

ツルニ際シ若意ヲ斯ニ留メテ撰擇セズンバ世道ヲ害
シ人心ヲ誤ラント鮮カラザルベシ慎マザルベケンヤ

第十三章 族制ノ種類

族制ニ單一ノ姓族ヨリ成ルモノアリ數多ノ姓族ヨ
リ成ルモノアリ支那ハ數多ノ姓族ヨリ成レルモノニ
シテ我カ邦ハ單一ノ姓族ヨリ成レルモノナリ

蓋支那ノ國タル大陸ニ在リ先入ノ姓族後侵ノ姓族
ヲ防クト甚難キヲ以テ酋長ノ侵入スルモノハ前後ニ
輩出シ土民ノ繁殖スルモノハ遠近ニ並立シ各其姓ヲ
異ニシテ相持シ釁アレバ輒相伐テリ

我カ邦ハ之ニ反シ小島ニ據リテ國ヲ成シ先入ノ一

姓後侵ノ諸群ヲ防クト甚易キヲ以テ一姓獨榮エ他姓
ハ微弱ニシテ敢テ共ニ争フモノナキナリ

是ヲ以テ我ガ邦ニ於テハ一姓族ノ長タルモノハ其
ノ下ニ屬スル數多ノ氏族ヲ統ヘ支那ニ於テハ一姓族
ノ長タルモノハ嘗ニ自姓及之ニ屬スル氏族ノミナラ
ズ亦他姓及之ニ屬スル氏族ヲ統ブ是其ノ結果ノ相異
ナルナリ

夫ノ革命ノ屢支那ニ行ハレテ我カ邦ニ行ハレザル
モ亦必シモ之ニ由ラズバアラズ何トナレバ單姓國ノ
人民ハ皆同一ノ姓族ニ屬スルヲ以テ其ノ族長ヲ弑ス
ルハ子ニシテ其ノ父ヲ弑スルニ異ナラザルナリ誰カ

能ク忍ヒテ之ヲナスモノアラシヤ支那ハ之ニ反シ周人ニシテ殷ノ君主ヲ殺シ秦人ニシテ周ノ天子ヲ殺セルハ猶隣人ノ父ヲ斃スカコトキノミ唯族制ニ於テ甚シキ不可ナキノミナラズ反テ我カ姓族ヲ大ニスルノ功アリ故ニ革命獨彼レニ行ハル是其ノ結果ノ相異ナルニナリ

後世ニ至リ我カ邦ノ將相ハ皆其ノ跡ヲ恭順ニシ遂ニ大政ヲ還シ奉リ支那ノ權臣王位ヲ奪フヲ掌ヲ反スヨリ易キカ如クナラザリシモ亦安ゾ之ニ由ラザルヲ知ランヤ彼ノ藤原源平足利徳川ノ輩ハ皆國民ノ族長ニ非ズシテ政權ヲ握リ族長ノ任ニ當レリ是豈族制

ニ反セルモノニ非ズヤ然ルニ其ノ政權ハ之ヲ他族ニ傳ヘズシテ獨其ノ族ニ授ケントシ又其ノ族人ニ於ケルハ自氏長ノ位ニ居リテ之ヲ使役シテ他族ニ事フルヲ勿ラシメタリ是豈族制ヲ贊セルモノニ非ズヤ氷炭相容レザルモノヲ取リテ之ヲ並行セルヲ此ノ如シ其ノ敗ル、ヲハ何ゾ怪ムニ足ランヤ是其ノ結果ノ相異ナルニナリ

第十四章 君臣ノ情

人類ノ初メテ相集ルヤ自然ニ智者ニ就キテ疑ヲ決シ曲直ヲ辨ゼザルヲ得ズ強者ニ頼リテ身ヲ保チ幸福ヲ全ウセザルヲ得ズ故ニ遂ニ之ヲ推シテ酋長ト

シ其ノ約束ニ從フ而シテ酋長ノ智勇他ニ越ユルモノ
 ハ必其ノ近隣ヲ並セ漸、土地ヲ開キテ盛大ニ至ルモノ
 アリ其ノ酋長ノ死スルヤ其ノ位ヲ子孫ニ傳ヘ或ハ賢
 者ヲ舉ケテ之ニ傳フ是君主ノ由リテ來ル所以ナリ而
 シテ其ノ管スル所ノ部落強大ニ至レバ之ヲ國ト名ケ
 テ其ノ君主ヲ國王ト稱ス國王ノ臣民ニ於ケルハ猶戸
 主ノ家族ニ於ケルカゴトク教師ノ生徒ニ於ケルカゴ
 トシ國王タルモノハ統治教導ノ任ニ當リ其ノ品位ヲ
 保チ其ノ臣民ヲ愛シ之ニ服從スルモノハ其ノ品位ヲ
 尊ヒ其ノ撫愛ニ感シ身ヲ致シ忠ヲ盡サントス之ヲ君
 臣ノ情ト云フ

我カ邦建國以來一系連綿タル

皇室ヲ戴キ

天位ノ尊キ數千年モ猶一日ノコトク君臣ノ分粲然ト
 シテ紊レズ情誼ノ篤キ一萬國比スベキモノナシ蓋宗
 教ヤ族制ヤ政治ヤ兵馬ヤ一トシテ
 皇室ヨリ出テザルモノナキニ由ルナリ讀者之ヲ疑ハ
 ヲ請フ之ヲ左ニ抄スル所ノ歴史ニ質セ
 神武天皇ノ位ニ即キ給フヤ首メニ神籬ヲ樹テ八神
 ヲ祭リテ

皇室ノ守護神トシ又靈時ヲ立テ

皇祖天照大神ヲ祭リテ大孝ノ道ヲ伸ベ給ヒ臣連等ノ

官吏ヲ置キテ政治ヲ掌ラシメ給ヘリ

崇神天皇ニ至リ詔シテ曰ク惟フニ我が皇祖諸ノ天皇宸極ニ光臨シ給ヘルモノハ豈一身ノタメナランヤ蓋以テ神人ヲ司牧シ天下ヲ經綸スル所ナリ云々又天照大神ヲ笠縫ニ祭り將軍ヲ四道ニ發シテ善教ヲ布キ池溝ヲ開キ船舶ヲ造リテ仁政ヲ施シ給ヒ人民之ヲ悅ヒ尊號ヲ上リテ御肇國天皇ト稱シ奉レリ

垂仁天皇之ニ次キテ屯倉ヲ置キ諸國ニ令シテ益池溝ヲ開カシメ又

天照大神ヲ度會ニ祭り兵器ヲ以テ祭幣トナシ給ヒ成務天皇ハ國郡ニ造長ヲ立テ縣邑ニ稻置ヲ置キ國縣

ヲ分チ邑里ヲ定メ給ヒ

景行天皇

仲哀天皇ハ屢東ノ方蝦夷ヲ驅リ西ノ方熊襲ヲ征シ給ヒ神功皇后ハ波瀾ヲ凌キテ遠ク西蕃ヲ征シ永ク其ノ覬覦ヲ絶チ給ヘリ

孝德天皇ニ至リテハ田畝ヲ校シ兵庫ヲ起シ民數ヲ錄シ私ニ土地ヲ賣買スルヲ禁シ又大ニ制度ノ改革ヲ行ヘ給ヘリ其ノ勅諭ノ一ニ曰ク前代置ク所ノ子代ノ民屯倉及臣連ニ造村首ノ有スル所ノ部民田莊ヲ罷メ大夫以上ニハ食封ヲ賜ヒ官人百姓ニハ布帛ヲ賜フニ京師ヲ修メ畿内ノ疆界ヲ定メ國司郡司關塞斥候防

人驛傳ヲ置キ鈴契ヲ造リ郡ノ大中小ヲ定メ大領小領
 主政主帳ヲ置ク三ニ戸籍計帳ヲ造リ班田收授ノ法ヲ
 制シ里長ヲ置キ田畝ヲ定ム四ニ賦役ノ舊制ヲ罷メテ
 田調ヲ行ヒ兵馬仕丁ヲ出シ采女ヲ貢スルノ制ヲ定ム
 ト其ノ他葬制ヲ定メ農事ヲ勸メ八省ヲ置キ冠位ヲ制
 シ給ヘシ等勝ケテ數フベカラズ

文武天皇ノ如キハ屢田租ヲ民ニ賜ヒ課役ヲ免シ耆
 老ヲ恤ミ疫疾ノ行ハル、ヤ必醫藥ヲ給シ孝義ノ聞ユ
 ルモノアルヤ必之ヲ賞シ廉節ノ士アルヤ必之ヲ擧ゲ
 偏黨ヲ禁シ答法ヲ定メ賭博遊手ヲ罰シ使者ヲ四方ニ
 遣ハシテ非違ヲ檢察セシメ給ヘリ

後二百余年ヲ經テ相門權ヲ專ラニシ又二百余年ニ
 シテ武門柄ヲ握リ

今上ニ至ルニ及ビ大政

皇室ニ復リ民智大ニ進ミ善政良法日ニ増シ月ニ加ハ
 リテ無前ノ隆盛ヲ見ルニ至リシハ左ノ勅語ヲ拜讀シ
 テ以テ其ノ大概ヲ知ルベシ

明治元年

天皇公卿諸侯ヲ率非テ
 天神地祇ヲ祭り五事ヲ誓約シ給ヘリ日ク廣ク會議ヲ
 興シ萬機公論ニ決スベシ日ク上下心ヲ一ニシ盛ニ經
 綸ヲ行フベシ日ク官武一途庶民ニ至ルマテ各其ノ志

ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マザラシメンコトヲ要ス曰ク舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クベシ曰ク知識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スベシ因テ詔シテ曰ク我が國未曾有ノ變革ヲ爲サントシテ朕躬ヲ以テ衆ニ先タチ天地神明ニ誓ヒ大ニ斯ノ國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ立テントス衆亦此ノ旨趣ニ基キ協心努力セヨ

八年詔シテ曰ク朕即位ノ初メ首トシテ群臣ヲ會シ五事ヲ以テ神明ニ誓ヒ國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ求ム幸ニ祖宗ノ靈ト群臣ノ力トニ頼リ以テ今日ノ小康ヲ得タリ顧フニ中興日淺ク内治ノ事當ニ振作更張スベキモノ少シトセズ朕今誓文ノ意ヲ擴充シ茲ニ元老

院ヲ設ケ以テ立法ノ源ヲ廣メ大審院ヲ置キ以テ審判ノ權ヲ證クシ又地方官ヲ召集シ以テ民情ヲ通シ公益ヲ圖リ漸次ニ國家立憲ノ政體ヲ立テ汝衆庶ト俱ニ其ノ慶ニ賴ラントス汝衆庶或ハ舊ニ泥ミ故ニ慣ル、コト莫ク又或ハ進ムニ輕ク爲スニ急ナルコト莫ク其レ能ク朕カ旨ヲ体シテ翼賛スル所アレ

十四年又詔シテ曰ク朕祖宗二千五百有餘年ノ鴻緒ヲ嗣キ中古紐ヲ解クノ乾綱ヲ振張シ大政ノ統一ヲ總攬シ又夙ニ立憲ノ政體ヲ建テ後世子孫繼ク可キノ業ヲ爲サンコトヲ期ス嚮ニ明治八年ニ元老院ヲ設ケ十一年ニ府縣會ヲ開カシム此レ皆漸次基ヲ創メ序ニ循ヒ

テ歩ヲ進ムルノ道ニ非ザルハナシ爾有衆亦朕カ心ヲ
諒トセン

顧フニ立國ノ体各宜ヲ殊ニス非常ノ事業實ニ輕舉ニ
便ナラズ我ガ祖我カ宗照臨シテ上ニ在リ遺烈ヲ揚ケ
洪模ヲ弘メ古今ヲ變通シ斷シテ之ヲ行フ責メ朕カ躬
ニ在リ將ニ明治二十三年ヲ期シ議員ヲ召シ國會ヲ開
キ以テ朕カ初志ヲ成サントス今在廷臣僚ニ命シ假ス
ニ時日ヲ以テシ經畫ノ責ニ當ラシム其ノ組織權限ニ
至リテハ朕親ヲ衷ヲ裁シ時ニ及ビテ公布スル所アラ
ントス

朕惟フニ人心進ムニ偏シテ時會速ヲ競フ浮言相動カ

シ竟ニ大計ヲ遺ル是宜シク今ニ及ヒテ模訓ヲ明徴シ
以テ朝野臣民ニ公示スベシ若仍故ニ躁急ヲ争ヒ事變
ヲ煽シ國安ヲ害スルコトアラハ處スルニ國典ヲ以テス
ベシ特ニ茲ニ言明シ爾有衆ニ諭ス

二十二年二月國會開設ノ期已ニ明年ニ在ルヲ以テ
憲法ヲ發布シ給ヘリ其ノ勅語ニ曰ク朕國家ノ隆昌ト
臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ受ク
ルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ
大典ヲ宣布ス

惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚
リ我カ帝國ヲ肇造シ以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神

聖ナル祖宗ノ威徳ト並ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ
 愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタ
 ルナリ朕我カ臣民ハ即祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナ
 ルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉體シ朕カ事ヲ獎順シ相與
 ニ和衷協同シ益我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗
 ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此ノ
 負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハザルナリト
 神武天皇即位シ給ヘシヨリ實ニ二千五百四十九年ナ
 リ

然シテ臣民ノ

皇室ヲ尊敬シテ少シモ失墜スルコトナキモノハ豈唯制

度法律ノ利便ヲ被ムルノミニシテ然ラシヤ亦

列聖ノ臣民ヲ子愛シ國事ヲ軫念シ給ヘシニ由ルナリ

今其ノ一斑ヲ説カバ

仁徳天皇ハ臣民ノ富マンコトヲ圖リテ租稅夫役ヲ免シ
 給ヒ屋漏リ窓破レ花朝ノ雨ハ袞衣ヲ沾シ霜夜ノ月ハ
 龍座ヲ照セシテ數年ニシテ偶々高臺ニ上リ民烟ノ天
 ニ接セルヲ望ミ給ヒテ

たかきやに、のほりてみれハ、けふりたつ、

たみのかまとは、にきはひよけり、

醍醐天皇及

一條天皇ハ寒風膚ヲ刺シ殘燈凍ラントスルノ時ニ方

リ故ニ御衣ヲ脱シテ村落細民飢ニ號ヒ寒ニ泣クノ情
ヲ想像シ給フニ至レリ又

今上天皇ノ御製ニ

いよゝへの、ふみみることよ、れもふなり、

れのかれさむる、くよはいかよと、

此皆其ノ臣民ヲ子愛シ國事ヲ軫念シ給フノ

宸衷偶然物ニ隨ヒテ見ハレ時ニ觸レテ發スルモノナ

リ苟其ノ臣民タルモノニシテ之ヲ聞カハ誰カ感泣セ

サルモノアラシヤ嗚呼此我カ邦君臣情誼ノ篤キ一萬

國ニ冠タル所以ナルカ

第十五章 君主ト宗教ノ關係

世上或ハ天神ハ君主ノ上ニ位シ宗教ハ道理ノ上ニ
在リト論スルモノアリ是其ノ思想ハ彼ノ猶太神政時
代ノ人民若クハ羅馬法皇政治時代ノ人民ト相去ルコ
幾何ゾヤ猶太神政時代ノ人民ハ天神ヲ以テ其ノ眞主
トシ君主ヲ以テ之カ輔佐トシ羅馬人モ亦以爲ヘラク
眞主ハ天神ニシテ法皇ハ教ヲ司リ皇帝ハ政ヲ司リテ
共ニ眞主ニ事フルモノナリト故ニ皇帝、若法皇ノ意ニ
違フコアレバ法皇ハ人民ニ令シ皇帝ニ忠勤スル義務
ヲ免シ人民ハ之ヲ天神ノ命令ト稱シテ直ニ皇帝ニ敵
セリ

昔儒某アリ門人ニ謂ヒテ曰ク今若孔夫子將トナリ

孟子裨トナリ天命ヲ奉シ王道ヲ行フト號シ來リテ我カ國ヲ攻メバ如何セントスルヤ擧坐未タ對ヘズ某聲ヲ勵シテ曰ク努力奮戰シテ彼ノ艦ヲ沒シ彼ノ首ヲ梟センノミ是即孔孟ノ道ナリト何ソ其レ彼此相反スルノ甚シキヤ他ナシ一ハ神ノ怒ヲ畏レ神ノ愛ヲ希フテ君ニ忠シ一ハ唯道理ニ從ヒテ君ニ忠スルニ由ルナリ夫宇宙ノ間何物カ最モ尊キ曰ク道理是ナリ夫ノ人ノ生死スルヤ國ノ興廢スルヤ日月星辰ノ天ニ麗クヤ山川草木ノ地ニ列スルヤ盡道理ニ由ラザルハナシ今神ノ尊否モ固ヨリ其ノ道理ニ合フト不ラザルトニ由リテ之ヲ決セズバアルベカラズ然ルニ天神ノタメニ

其ノ君主ヲ賤ミ宗教ノタメニ其ノ國法ヲ破ルカ如キハ是道理ヲ外ニシテ尊ブベキ天神アリトスルモノナリ豈其レ然ランヤ然ラハ宗教ハ無用ノモノナリヤ曰ク否ラズ道理ノ尊キ一既ニ此ノ如クナレバ寧ンゾ國家ノ進歩ヲ助ケテ道理ノ尊キ一ヲ知ラシメタル人々ヲ敬拜セザルベケンヤ姑我が邦ニ就キテ之ヲ言ハ、神代ノ天神地祇及歷代ノ天皇ハ固ヨリ言ヲ待タズ日本武尊神功皇后ノ如キハ各國相凌カントスル時ニ際シ日本ヲシテ日本タル一ヲ得シメ且國民ノタメニ道理ノ域ニ入ルノ道ヲ開キ

給へシモノナリ其ノ他今日官社國社ノ諸神ノ如ハキ
 或ハ忠義ヲ執リテ
 皇室ヲ尊ヒ或ハ草萊ヲ開キテ國利ヲ興セシ人々ニシ
 テ國家ノ進歩ニ於テ勳勞アラザルハナシ宜ナルカナ
 數千百年ノ後ニ至ルモ上ハ
 天皇ヨリ下ハ芻童馬卒ニ至ルマテ之ヲ敬ヒ之ヲ拜シ
 テ衰ヘザルコヤ又支那ノ孔夫子ノ如キ印度ノ釋迦佛
 ノ如キ西洋ノ基督ノ如キ皆各國ノ進化ニ與リテ莫大
 ノ勳勞アリ他國ノ人民ダモ其ノ教ヲ究メ其ノ德ヲ慕
 へリ況其ノ國ニ生レ其ノ澤ヲ被ルモノハ何ゾ之ヲ敬
 拜セザルベケンヤ是道理ニ於テ固ヨリ然ラザルコヤ

得ザルモノナリ
 然レバ宗教ハ豈無用ノモノナランヤ唯其ノ道理ニ
 合ヘルモノヲ取り不ラザルモノヲ去ルベキノミ若道
 理ノ世ニ宗教ヲ要セズト云フカ如キハ彼ノ道理ハ天
 神ノ下ニ在リト説クト共ニ道理ヲ得ザルモノト云フ
 ベキナリ

第十六章 官制上

政府ハ内閣樞密院及各省ヨリ成リ内閣ハ内閣總理
 大臣及各省大臣ヲ以テ成ル

内閣ニ内閣書記官長及書記官アリ書記官長ハ内閣
 ノ文書及閣内庶課ノ事務ヲ掌リ書記官ハ文書ノ起草

并ニ奏任官以上ノ奏薦叙任其ノ他身分ニ關スル文書ヲ掌ル

内閣ニ法制局アリ行政司法法制ノ三ニ分ル行政部ハ外交内務勸業教育軍制財務遞信ニ關スル法律命令ノ起草審査ヲ掌リ司法部ハ恩赦特典及諸裁判所ノ官制及行政裁判ヲ掌リ法制部ハ民法訴訟法商法刑法治罪法及之ニ關スル命令ノ起草審査ヲ掌ル

樞密院ハ

天皇親臨シテ重要ノ國務ヲ諮詢シ給フ所ニシテ議長副議長各一名顧問官十二名以上ヨリ成ル憲法及憲法ニ附屬セル法律ノ解釋ニ關シ又ハ其ノ改正ニ關スル

草案重要ナル勅令新法ノ草案又ハ現行法律ノ廢止改正ニ關スル草案列國交渉ノ條約及行政組織ノ計畫豫算其ノ他會計上ノ疑義ニ關スル爭議等ノ事項ニ付キ會議ヲ開キ意見ヲ上奏シ勅裁ヲ請フモノトス立法及行政ノ事ニ關シテ會議スルノ權アルト此ノ如シト雖毫モ施政ニ與カルトナシ

會計検査院ハ内閣總理大臣ノ指揮監査ヲ受ケ政府ノ會計ヲ検査スル所トス蓋國資總理ノ點ヨリ國家財政ノ全般ヲ検査スルモノニシテ事務ノ重要ナルト知ルベキナリ

外務省ハ外國ニ對スル政畧ノ執行外國ニ於ケル貿

易ノ保護獎勵ニ關スル事交際官ヲ派出シテ政治上ノ事ヲ視察執行セシムル事領事ヲ置キテ農工商業ノ事務ヲ報告獎勵セシムル事等ヲ司ル

内務省ハ地方行政高等警察監獄土木衛生社寺出版戸籍救濟等ニ關スル事務ヲ監理シ又中央衛生會警視總監及地方行政官ヲ監督ス

大藏省ハ歲入歲出租稅國債貨幣及銀行ニ關スル事務ヲ掌リ兼テ地方ノ財務ヲ監督ス内ニ主稅關稅主計出納國債金庫銀行記錄會計等ノ諸局アリ

陸軍省ハ陸軍軍政ヲ管理シ軍人軍屬ヲ統督ス我カ邦ノ陸軍ハ古ヨリ

大皇親ヲ率非給フ所ニシテ參謀本部監軍部師團ハ省外ニ在リ故ニ一旦事アルトキハ參謀總長之ヲ上奏シテ兵ヲ動カシ大臣ハ行政官トシ省内ニ在リテ兵員被服彈藥銃器等ノ事ヲ司ル

海軍省ハ海軍軍政ヲ管理シ軍人軍屬ヲ統督ス亦天皇ノ直轄ニシテ大臣ノ能ク左右スル所ニ非ズ然レトモ大臣ハ行政事務ノミニ止マラズ帷幕ノ機務ニ參シ出師作戰海防ノ計畫ニ任ス全國海岸ヲ分ケテ五海軍區トシテ之ヲ管ス

司法省ハ司法ニ關スル行政司法警察及恩赦ニ關スル事務等ヲ司リ又大審院以下ノ諸裁判ヲ監督ス今之

ヲ左ニ掲ケテ讀者ノ便ニ供ス

專刑事ニ關スルモノハ違警罪裁判所輕罪裁判所重罪裁判所アリ專民事ニ關スルモノハ治安裁判所始審裁判所アリ而シテ控訴院大審院ニハ各民事刑事ノ二局ヲ設ケ諸ノ裁判ニ服セザルモノヲ裁判ス

凡刑事ニ關スル裁判ノ最初ハ違警罪ノ裁判ニシテ之ニ次クモノハ輕罪裁判所ナリ輕罪裁判所ハ輕罪ヲ裁判シ又輕罪及重罪ノ豫審ヲ行ヒ又管轄地内ノ違警罪裁判所ノ始審ノ裁判ニ對スル控訴ヲ裁判ス但シ違警罪裁判ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ行ヒ輕罪裁判所ハ始審裁判所ニ之ヲ設ク

重罪裁判所ハ控訴院又ハ始審裁判所ニ於テ之ヲ開ク控訴院ハ輕罪裁判所ノ始審ノ裁判ニ對スル控訴ヲ裁判ス

大審院ハ上告再審ノ訴裁判管轄ヲ定ムル訴及公安又ハ嫌疑ノタメ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ裁判ス之ヲ刑事ニ關スル最終ノ判決トス

高等法院ハ

皇室ニ對スル重罪國事ニ關スル重罪
皇族勅任官ノ犯シタル重罪等ヲ裁判スルモノニシテ
司法大臣ノ奏請ニ由リ上裁ヲ以テ之ヲ開ク

凡民事ニ關スル治安裁判所ノ判決ニ服スルヲ能ハ

ザルモノハ之ヲ始審裁判所ニ上告シ始審裁判所ノ裁
 決ニ服スルヲ能ハザルモノハ之ヲ控訴院ニ上告シ控
 訴院ノ判決ニ服セザルモノハ大審院ニ上告スルヲ
 得大審院ハ最終ノ裁決ヲ與フル所ナリ

文部省ハ教育及美術ニ關スル事務ヲ監理ス全國ヲ
 分チテ五高等中學區トシテ之ヲ管シ又諸ノ高等學校
 ヲ管ス

農商務省ハ農業商業工藝技術漁獵山林地質鑛
 山及營業ニ關スル事務ヲ監理ス又本省ノ管轄ニ屬ス
 ル學校アリ製造所アリ全國ヲ分チテ數大林區トス
 遞信省ハ郵便電信燈臺浮標船舶及海員ニ關スル事

務ヲ監理シ又電信商船等ノ諸校ヲ管ス

官内省ハ專

皇室ノ事務ヲ執ル所ニシテ政治ノ責ナク大臣ハ内閣
 ニ列セス直ニ

天皇ニ屬シ政府及帝國議會ニ干涉セラル、ヲナシ

第十七章 官制下

府縣知事ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ一府縣ノ行政
 事務ヲ總轄ス今此ノ事務ヲ大別セバ府縣廳ノ事務收
 稅ノ事務警察ノ事務是ナリ

知事ノ身分ハ職務上ニ於テハ内務大臣ノ配下ニ在
 リト雖各省主任ノ事務ニ關シテハ主任大臣ノ指揮ヲ

仰クモノトス今其ノ職權ノ主ナルモノヲ示サバ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務警察事務ヲ總理シ又行政警察ノ事務ニ關シテハ法律命令ノ範圍内ニ於テ府縣令ヲ發スル權アリ又所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ功過ハ之ヲ内務大臣若クハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ヲ專ニスルヲ得又法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒シ又非常急變ノ場合ニハ地方鎮臺若クハ營所ノ指令官ニ移牒シテ出兵ヲ求ムルヲ得又各郡區内警察分署ノ配置分合ヲ定メ又須要ニ從ヒテ俸給豫算定額内ニ於テ土木工藝等ノ技術官ヲ備フヲ得

島司ハ其ノ職權知事ヨリ狹ク郡長ヨリ廣シ現時大島對馬隱岐小笠原島ニ之ヲ置ク此ノ地ニハ郡長ヲ置カズ

郡區長ノ職權ハ法律命令ヲ部内ニ執行シ又部内ノ行政事務ヲ司リ又法律命令ヲ以テ特ニ委任ヲ受ケタル事務及知事ノ特ニ分任シタル事務ハ便宜執行シテ之ヲ知事ニ報告シ又行政事務ニ付キ部内ノ町村長ヲ指揮シ又公共ノ事務ニ關シテ町村長ヲ監督ス

明治廿三年二月十一日印刷
明治廿三年二月廿七日出版



編輯者 新潟縣士族 高賀 詵三郎

東京麹町區飯田町
二丁目十番地寄留

發行者 福井縣平民 柳原 新一郎

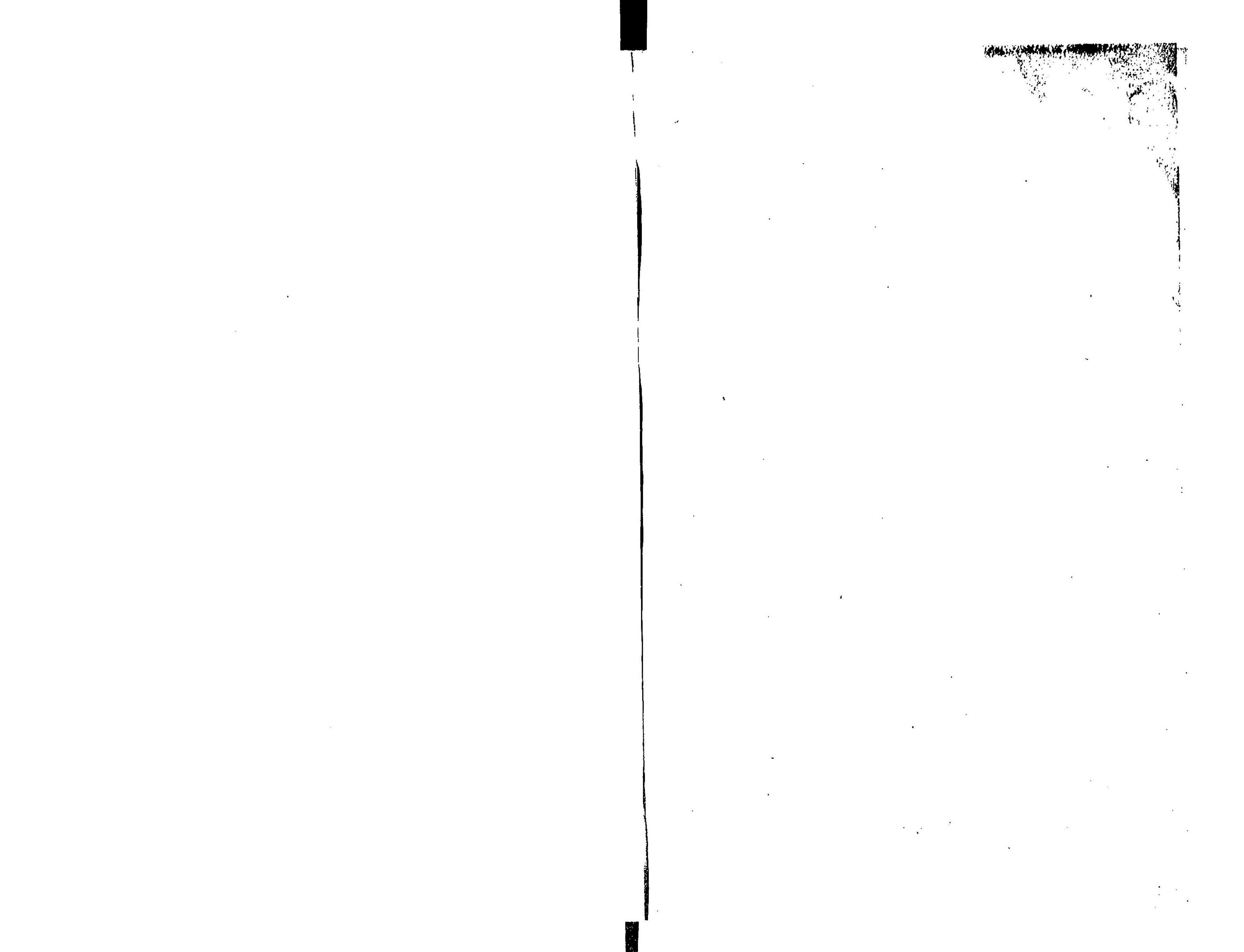
東京神田區裏神保町
一番地

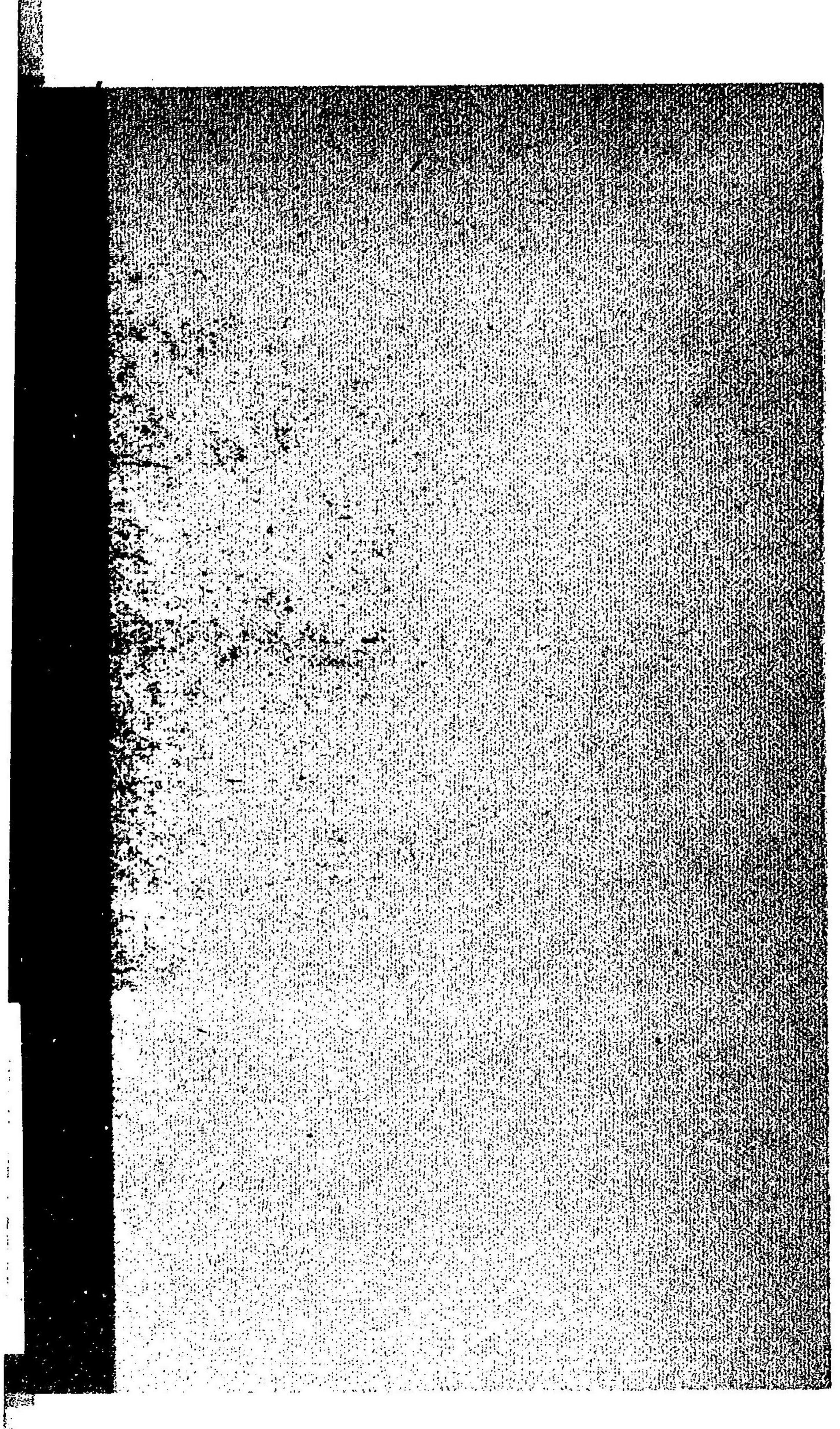
印刷者 滋賀縣士族 熊田 宜遜

東京神田區松下町
十三番地

發售
肆兌

東京神保町 敬業社





特26

933

國民讀本

高賀銑三郎編

国立国会図書館

009671-000-9

特26-933

国民読本

高賀 銑三郎/編

M2.3

AAE-0746

